

平成 21 年 3 月 31 日現在

研究種目：基盤研究（C）  
 研究期間：2006 年度～2008 年度  
 課題番号：18520391  
 研究課題名（和文）Ælfric の説教散文の受容と変容——後期古英語散文のテキストと言語の基礎的研究  
 研究課題名（英文）Reception and Appropriation of Ælfric's Homilies——A Study of Texts and Language in Late Old English Prose  
 研究代表者  
 小川 浩（OGAWA HIROSHI）  
 昭和女子大学・文学研究科・教授  
 研究者番号 90029736

## 研究成果の概要：

- (1) Ælfric の *Catholic Homilies* とそれを改変して用いた後代の作品群を調査し、対応個所を明らかにし、両者を対比したパラレル・テキストを 12 作品について作成した。
- (2) そのうちの 2 作品について、句読点などを含め原写本に忠実な新たな校訂版を作成した。
- (3) 以上を用いて、*Catholic Homilies* の受容と変容を統語法・文体を中心として研究した。とくに Ælfric の原文と改変版を比較し、どのような散文体の発達が見られるかを考察した。

## 交付額

(金額単位：円)

|         | 直接経費      | 間接経費    | 合計        |
|---------|-----------|---------|-----------|
| 2006 年度 | 1,000,000 | 0       | 1,000,000 |
| 2007 年度 | 800,000   | 240,000 | 1,040,000 |
| 2008 年度 | 600,000   | 180,000 | 780,000   |
| 総計      | 2,400,000 | 420,000 | 2,820,000 |

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・英語学

キーワード：英文学、中世期英語文献学、古英語、説教散文、Ælfric、文体、写本

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 本研究の対象とする 10 世紀後半から 12 世紀初頭にかけての説教散文（とくに所謂 ‘composite homilies’）は、古英語後期と

初期中英語の中間に位置し、英語散文史の鍵を握る時期でありながら、その前後の時期に比して研究は大きく立ち遅れている。とくに作者不祥の説教作品については、Karl Jost

の研究 (1950) 以後、わずかな例外を除けばまとまった研究はほとんど行われていない。Janet Batley, Donald Scragg らによる近年の散文研究の成果をふまえ、Ælfric の *Catholic Homilies* の「受容と変容」の実態についての系統的な研究を進めることは、この欠を補う重要な一歩となろう。併せて、近年盛んになりつつある受容史の観点からの作品研究の面でも、一つの具体的な成果につながることを期待される。

(2) そのために必要なツールは、*Microfiche Concordance to Old English, Dictionary of Old English* (いずれも Toronto 大学) など、徐々に整いつつあるが、言語面からの古英語散文研究は未だ欧米でも極めて不十分にしか行われていない。特に統語法と文体の発達については欧米では等閑視されがちであり、この面についての本格的な研究を進めることが急務である。国内では、1987年の日本英文学会シンポジウムを契機に本研究代表者自身を中心となって研究を進めてきたが、幸いその成果は国内のみならず、国際的にも Bruce Mitchell (Oxford), Fred C. Robinson (Yale), M. R. Godden (Oxford) らの好意的な評価を受けるに至っている。

(3) 本研究課題の目指す古英語散文の言語研究のためには、句読点などを modernize した既存の刊本では不十分である。したがってテキストの見直し——句読点なども含めて原写本に忠実で厳密なテキストの作成——が緊急の課題である。*Catholic Homilies* そのものについては、Malcolm Godden と Peter Clemoes による権威ある校訂本 (EETS, s. s. 5, 17) があるが、*Catholic Homilies* を改変した後代の作品群については多くの場合 modernize した刊本が依然として用いられており、また未校訂のものも少なくない。これらについてはテキストそのものの見直しの余地が残されている。原写本に基づく厳密なテキストが完成すれば、Donald Scragg によって進められている散文コーパス集大成のプロジェクトに対する我が国からの貢献となろう。

## 2. 研究の目的

本研究は、後期古英語の散文を代表する Ælfric の *Catholic Homilies* (10世紀末) と、11-12 世紀にこれに改変を加え発展させた作者不詳の説教作品群のテキストと言語についての比較研究である。Ælfric の *Catholic Homilies* は後期古英語散文の中でも最も重要な作品であり、その中の個別の説教については、とくに source studies の観点から既に多くの研究がある。しかし、それらの作品の受容の状況とその過程において見られる言語・文体の変容は、散文史研究の中核をなす「説教散文の伝統」もしくは「系譜」の観点からみて最も重要なテーマであるにもかかわらず、その面の研究は今日でも依然としてほとんど行われていない。したがって当該の一連の説教作品のテキストと言語についての徹底した包括的な研究がいま求められている。そのためには、まず Ælfric の *Catholic Homilies* とそれをもとに改訂した後代 (11-12 世紀) の諸作品との関係を調査し、対応箇所 of 包括的なパラレルテキストのデータベースを作成することが第一の急務である。第二に、それによって明らかになった Ælfric 受容の実態を示す作品コーパスについて、現存の刊本を参照しつつ、原写本に基づく厳密なテキストの作成を目指す。第三に、完成した校訂本をコンピュータ可読テキスト化し、そのコンコーダンス作成を目指す。そして第四に、以上の基礎資料をもとにして、これらの「原作」と「改訂版」の言語を統語法・文体の側面から研究し、テキスト・言語の変容の実態を明らかにするとともに、今後の古英語散文史研究の展望を得ることを目的とする。

## 3. 研究の方法

(1) 第一に課題研究の基盤整備として、まず、Ælfric の *Catholic Homilies* を改変して利用した後代の作品コーパスを網羅的に調査確定し、対応箇所を逐一明らかにし、それらを Ælfric の原文と対比したパラレルテクス

トのデータベースを作成する。そのための関連研究としては Mary Swan の学位論文 (1993) などがあるが、これは文学的な視点からの考察が中心となっており、言語と散文体の「系譜研究」という本研究の目的とは大きく異なる。したがって、先ずさらに徹底した調査によって「系譜」の全容を明らかにし、そしてその全体について *Catholic Homilies* の原文と平行に並置した版を編集作成することが必要である。これによってテキスト間の異同が一目瞭然となり、精度の高い、しかも高速な比較照合が可能となる。そのために既存の関連刊本を網羅的に収集し、未校訂分については原写本にもとづいて調査し、包括的なデータベースの作成を目指す。

(2) 上記の平行テキストは既存の刊本に基づいて作成する。しかしそれらの多くは句読点などを modernize しており、このままでは本研究の目的にとって充分とは言えない。*Catholic Homilies* そのものについては、Peter Clemoes と Malcolm Godden による権威ある校訂本があるが、*Catholic Homilies* を改変した後代の作品群については不十分な刊本が依然として用いられており、また未校訂のものも少なくない。これらについてはテキストそのものの見直しの余地が残されている。そこで、とくに重要な作品数点を選び原写本の句読点などを取り入れた新たなテキストを校訂し、そのコンピュータ可読化を行う。作品の選択に際しては、とくに原写本の制作年代及びその scriptoria、文体の多様性などを充分考慮し、本研究テーマの視点が有効なものとなるための条件を整える。未校訂の作品については原写本のマイクロフィルム、ファクシミリ版を中心に行い、また既存の校訂本についても原写本に基づく見直しを進め、原写本の句読点などを再現した、より厳密はテキストの確定を目指す。

(3) 以上の基礎資料とツールをもとにして、Ælfric, *Catholic Homilies* の受容と変容をとくに言語面について、統語法・文体を中心として研究する。とくに Ælfric の原文とその改変箇所を比較検討して、それらが並列・

従属構造、定動詞・非定動詞構造、頭韻や word pair などの韻律的側面、句読法、あるいはラテン語原典に対する態度（翻訳方法）などの点でどのように相違し、その間にどのような散文体の発達や系譜関係が見られるか、そしてそれらの諸側面が古英語説教散文の変容・発達の全体の中でどのように位置づけられるか、などを考察する。併せて、ほぼ同時代の Wulfstan の「リズムカルな散文」とも比較することによって これら諸作品の言語の特徴を解明し、後期古英語から初期中英語期にかけて存在した複数の散文体とその間の系譜関係を考察し、今後の英語散文史研究の展望を明らかにすることを旨とする。

#### 4. 研究成果

(1) 平行・テキストの作成——本研究課題の基盤整備として、まず Ælfric の *Catholic Homilies* を改変して用いた後代の作品群を調査確定し、対応箇所を逐一明らかにし、それらを Ælfric の原文と対比した平行・テキストのデータベースを作成した。作品コーパスの確定およびそのための source study にあたっては、その分野の先駆的研究である Mary Swan の学位論文 (1993) に依拠した。Swan によれば、Ælfric を利用した 11-12 世紀の作品は合計 26 作品を数えるが、このうち 10 作品 (Bodmer Fragment, ConfExh II, HomS 27, HomS 28, HomS 34, HomS 41, HomU 4, HomU 44, Warner 49) について、一部は DOE Corpus を利用し、一部は新たにテキストを自ら入力して、Ælfric の原文と平行に並置した版を作成した (残り 16 作品についても、出来るだけ早い機会に作成したいと思っている)。作成したデータベースは電子化した。以上によってテキスト間の異同が言語・内容両面にわたって一目瞭然となり、精度の高い、しかも高速な比較照合が可能となり、これらの作品についての今後の言語面の研究の態勢を整えることが出来た。

(2) テキストの校訂——上記の平行・テキスト作成にあたっては、既存の刊本を用い

た。しかしこれらの多くは、句読点などを modernize しており、これでは本研究の目的にとっては不十分であり、本格的な研究のためには、原写本の句読法などを取り入れた新たなテキストの校訂が必要である。この観点に立って、HomS 27 (*In Die Sancto Pasce*, MS CCC 162) HomS 28 (*De Descensu Christi ad Inferos*, MS Bodleian, Junius 121) の 2 作品について原写本に忠実な新たなテキストを作成した。作業は原写本のマイクロフィルムに拠って行った。作品選択に当っては、原写本の制作年代およびその scriptoria、文体の多様性などを考慮したが、この観点からさらに MS Lambeth 487, fols. 242r-46v についても、同じ趣旨の新たな校訂版の作成の準備作業を進めている (trial version は既に作成済み)。そのほかの当該作品のテキストについても、できるだけ早い機会に原写本に基づく見直しを進め、本研究課題の視点を一層有効なものとするべく努めたいと思っている。

(3) 言語研究——以上の基礎資料とツールをもとにして、*Catholic Homilies* の受容と変容をとくに言語面について、統語法・文体を中心として研究した。とくに Ælfric の原文とその改変箇所を比較検討して、それらが並列・従属構造、定動詞・非定動詞構造、頭韻や word pair などの韻律的側面、句読法、あるいはラテン語の影響などの点でどのように相違し、その間にどのような散文体の発達や系譜関係が見られるか、そしてそれらの諸側面が古英語説教散文の変容・発達の全体の中でどのように位置づけられるか、などを考察した。そして幸い、その結果を、別項に記載したように、図書 (単著)、論文、研究発表としてまとめ、国内外に成果を問うことができた。これらの成果をもとにして、今後も Ælfric とその周辺及び後代の作品についての研究を深化させるべく努めていく所存である。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 4 件)

- (1) Hiroshi Ogawa, 'Hagiography in Homily——Theme and Style in Ælfric's Two-Part Homily on SS Peter and Paul', *Review of English Studies* (2009、印刷中) (査読、有)
- (2) 小川 浩 「二つの古英語版 Matthew 25:14-30」専修大学『ことばの普遍と変容』4 (2009), pp. 1-9 (査読、無)
- (3) 小川 浩 「古英語研究を考える —— 一つの視点」『学苑』(昭和女子大学) 798 (2007), pp. 33-46 (査読、有)
- (4) 小川 浩 「書評: R. M. Liuzza (ed.), *Old English Literature: Critical Essays* (New Haven and London: Yale University Press, 2002). xxxvi + 479pp.」*Studies in Medieval English Language and Literature* (日本中世英語英文学会) 21 (2006), pp. 129-138 (査読、有)

[学会発表] (計 2 件)

- (1) 小川 浩 「Ælfric とジャンル——*Passio Petri et Pauli* (ÆHom I, 26) の主題と文体」(日本英文学会、2008年5月24日、広島大学)
- (2) 小川 浩 「*Catholic Homilies* における聖書引用」(専修大学公開講座「中世英文学研究の諸相」、2008年6月29日、専修大学神田キャンパス)

[図書] (計 1 件)

- (1) Hiroshi Ogawa, *Language and Style in Old English Composite Homilies* (Medieval and Renaissance Texts and Studies, Vol. 361. Arizona Center for Medieval and Renaissance Studies, Arizona State University. x + 209pp) (印刷中)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

小川 浩 (OGAWA HIROSHI)  
昭和女子大学・文学研究科・教授  
研究者番号：90029736

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし